

基本方針(案)についてのWSメンバー意見整理

1. 3案共通の意見

- 三案は、ほぼ言っていることの差異はなく、言い回しや表現の違いだけ。
- 将来像の具体化であればAかC。AにもCにも良い部分はある。
- A, B&C ともにくくりのフレーズの組み合わせを考えると3案以外の案もありか。
- 各論的には、資源の特性として、まちの魅力を市民が知らない、生かされていないとの問題認識に対する施策が何れの案も見当たらないので、少なくとも普及啓発を謳うべき。
- 基本方針は、つながり、暮らしやすさ、資源、未来とで構成されているが、全体を起承転結でわかりやすくストーリー化（シナリオ化）した表現が必要。今回は行動を伴う意思を表すものにした。
- 現行の将来像の「暮らし文化」は芦屋らしくて、よくできたワーディングだと思いますが、5年でなくなるのももったいない気がしますので、「暮らし文化」を発展、熟成させる切り口で考えても良いのではないかと。
- 全体的に現状の特性に対して、市民からの要望ばかりで、自分のまち作りの為に「市民としての行動」が引き出せていない、表現出来ていないのが残念です。従って「市民協働」の出番も見当たらない。

2. 案別意見分類

	A 案	B 案	C 案
全体	<ul style="list-style-type: none"> 一番多くの要素を含んでおりよくまとまっており、新たな試みに発展できる可能性が一番よく感じられる。 他の案に比べ、新しい時代対応を優先している。 未来志向でよい。ほかの案に比べ芦屋独自のがないので「芦屋」もいれてみると愛着がわく。 10年先の新しい時代対応には以下の2つの流れの意味表現を取り入れること。①. 国等が10年以内に対応が必要としている4つの流れ(1. 情報社会への対応, 2. グローバル化への対応 3. 健康長寿社会への健康福祉医療の対応, 働き方改革への対応(高齢者, 女性の雇用とそのキャリア教育)) ②第4次計画基本構想の未達成の施策, 1. 財務構造の改善(特に歳入面, 芦屋にあった産業商業の育成支援)と, 2. 男女共同参画社会の実現(女性活躍の支援) 「未来」というワードから、「今後変わりゆく環境に対して芦屋市がどう対応していくべきか」という意味合いまでは連想しづらい。他の視点も「芦屋の未来を考える」という点では共通しており、「未来」についての認識が人によっては単に「芦屋の未来」と捉えてしまっているように感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 1番短い文でありながら必要なことが含まれていて分かりやすい。 末尾の「あしや」を他の市町村に簡単に書き換えても違和感がない＝芦屋の色が出ない。 「あしや」は「芦屋」でいい。 	<ul style="list-style-type: none"> 見出しが内容を表現するのに的確。 現状の言葉では、これからの10年を見据えたワクワク感にかけている。 「芦屋スタイル」や「芦屋カラー」という表現は、「資源」や「未来」の欄の将来像を表す言葉として内容と整合しているかどうか確認しておく方がよい。 「行政がする」感が多い(デザインするやスタイルをつくるのは誰?皆で作るというより、市が作り、作られたものに皆が乗っかる感がする) 将来像と基本方針案のギャップを埋める作業が必要。
人のつながり	<ul style="list-style-type: none"> 「『わたし』と『あなた』と『みんなのこれから』に適うネットワーク」：ICTの発達やグローバル化が進み、急速に変化していく時代に今までと同じ人とのつながりを続けることが難しい。しかし、人が人として営んでいくにはつながりは必要であることには変わらない。また、市のあらゆる施策にも、コミュニティやつながりは重要なファクターを占める。今までの良さも認めながら、その時代や地域特性に合った結びのあり方を築いていくことが重要である。 「今までと同じ人とのつながりはあり得ない」は「今までと同じ人とのつながりばかりではない」では。 「市のあらゆる施策にも、・・占める」は、「・・コミュニティやつながりは重要はファクター(あるいは要素)となる」。 		<ul style="list-style-type: none"> Cの方がAよりも、立体的で有機的な印象。
暮らしやすさ	<ul style="list-style-type: none"> 「『安らぎ』と『包まり』を感じる芦屋デザイン」：豊かな自然や恵まれた住環境、交通利便性、コンパクトな地域特性など芦屋の良さがまちづくりの前提条件である。そのうえで、まちには子どもから高齢者がいて、様々なバックボーンを持っており、さらに お互いに認め合い、共に生きていくようなまちのデザインが求められる。あらゆる人が安心して暮らしやすく、それぞれのスタイルで活躍できるようなまちづくりに目指して取り組んでいく。 Aの方がCよりも文学的だが、芦屋らしい想像を発展させやすい。 表題の「包まり」はどう読むのか? 「つつまり」? 	<ul style="list-style-type: none"> C案が具体性があるのでMIXさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「コンパクトな地域性」は、「まちがコンパクトであること」では? 修正前) 子どもから高齢者まで→修正後) 多様なひとびと誰もが(「世代」だけでなく、マイノリティである方々や男女、外国人の方などあらゆる人にとって暮らしやすい、という点を表現したい) 「安心・安全に住み続けたいと思えるまちづくり」は、1行目の表現との整合性も考え、「安心・安全に住み続けられるまちづくり」が適切ではないか。
資源	<ul style="list-style-type: none"> Aの方がCよりも文字以上の想像力をかき立てやすい。 「『これまで』と『これから』の融合スタイル」：豊かな自然、伝統や文化、歴史的価値を持つものなど、守らなければならないものが数多くある。一方、時代の変化により新たな考え方が生まれ、時には既存資源を破壊することもある。残すべきは残し、変えるべきは変え、また、リノベーションにより既存のものに新たな付加価値を与え、時代と共に新化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「資源」、芦屋には自然か景観の環境的ハード面しかないの?という印象。人とのつながりで支え合う(互助)など、無形の社会資源や福祉資源(地域)も入れられると、芦屋のイメージが変わる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「時代のニーズにあったものに変えて～新しい芦屋スタイルをつくる」という視点に共感。
未来	<ul style="list-style-type: none"> 「次代へ『魅力あるまち』を手渡す創造」：日本は、少子高齢化・人口減少局面を迎えており、本市においても人口構造が劇的に変化する局面を迎える中で、持続可能なまちづくりが求められる。まちは「今」だけではなく、「これから」も続いていく。人口が減少していく中でも、「市民と行政、企業、地域団体等オール芦屋」で次代がワクワクし続けられるまちにしていけるために、そのセクションに適った取り組みを進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 「未来に「手渡す」」は少し違和感があり、C案「芦屋らしさをつなげる」の方がシンプルで分かりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「古くからある資源」は、先人が努力して守り、築いてきたものなので、「時を超えて守り、育まれてきた貴重な資源」と言う方が、価値あることが伝わる。 修正前) 市民が誇りに思える→修正後) 市民が誇りに思えて、市外からも人々が集う(外から入って来づらいうというイメージを変える表現を加えたい) 「時代のニーズにあったものに変えていくことで、あらたな価値を生み出し」は、「変えていく」ことを意識しているように読めるが、むしろ「常に時代の要請に応じて付加価値を高め」の方が思いが正確に表現できるのではないか。 Cの方がAよりも芦屋らしさがでている。